

令和2年度

教育総務部 教育総務課の方針書

組織名	教育総務部 教育総務課
所属長名	菊地 浩昭

1. 組織の使命(ありたい姿)

「郷土を愛し、共に語り、共に未来を切り拓く、人を育てるまち、横手」実現のため、横手市教育委員会の円滑な運営に努める。
安全で安心して学べる質の高い教育環境の整備を推進していく。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト等が一体となった整備を早急に行うことが求められている。
- ・十文字小学校の開校など、学校統合計画の円滑な推進が求められている。
- ・学校施設の長寿命化対策など、安全で安心な教育環境の整備が求められている。

3. 今年度の『スローガン』

児童生徒の目線に立った安全で安心な教育環境の整備を一層進めていこう

4. 今年度の方針

- ・「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト等が一体となった整備を早急に行っていく。
- ・十文字小学校の開校にむけ工事を確実に完成させるとともに着実な準備作業を行っていく。
- ・学校施設の長寿命化対策など、安全で安心な教育環境の整備を推進していく。
- ・教育委員会内各課等との連絡を密にしながら円滑な運営を推進していく。
- ・学校ごとに安心安全な学校環境を保つよう目配りや気配りを一層進めていく。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	GIGAスクール構想にもとづくICT環境の整備
	取組内容	「1人1台端末」の早期導入 学校ネットワーク環境の整備 活用支援対策の検討
(2)	実現したい成果	十文字小学校の開校にむけた着実な準備作業
	取組内容	十文字小学校建設工事の確実な完成 学校開設準備委員会等の開催による開校にむけた連絡調整の実施 周辺の環境整備の推進(市道の安全対策ほか)
(3)	実現したい成果	学校施設の長寿命化対策
	取組内容	旭小学校大規模改修工事 吉田・醍醐小学校アスベスト調査 浅舞小学校大規模改修工事に向けた準備(令和3年度予定)

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- 「GIGAスクール構想」
1人1台端末、学校ネットワーク環境整備ともプロポーザルによる業者選定を実施、年度内の整備を目指していく。
- 十文字小学校の開校
小学校建設工事の着実な進捗、学校開設準備委員会の開催、閉校記念式典の準備など順調に作業は進んでいる。
- 学校施設の長寿命化対策
旭小学校改修工事の完了、浅舞小学校の改修工事にむけ設計内容の確認、吉田・醍醐小学校アスベスト調査の準備。
- 学校における安心安全な環境整備
新型コロナ対策のため学校の備品や消耗品購入の支援、校務員の共同作業による環境整備などを実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- 端末導入、ネットワーク環境整備を完了させながら教職員研修等を実施し、令和3年度からの本格運用を確実なものとする。
- 十文字小学校の完成、学校開設準備(備品の調達、移動など)、閉校記念式典の開催(4小学校)、開校記念式典の準備等を実施。
- 学校の環境整備の一環として、新たに小中学校普通教室へのエアコン設置(令和3年度中に完成予定)、トイレの洋式化工事(令和2年度中に2小学校を予定)を行う。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- GIGAスクール構想にもとづくICT環境の整備
 - ・児童生徒1人1台学習用端末(5,589台)の購入、全小中学校(20校)の高速通信ネットワーク環境の整備が完了。
 - ・「ICT教育研究推進委員会」で教職員ICT活用研修などを実施しており令和3年度からの本格運用が実現する。
- 十文字小学校の開校にむけた着実な準備作業
 - ・令和3年3月をもって十文字小学校建設工事が完了。備品の整備や引っ越し等も完了し新生十文字小学校が誕生。
 - ・学校開設準備委員会を開催し校歌や校旗などを決定するとともに、4小学校の開校記念式典を実施。
- 学校施設の長寿命化対策
 - ・旭小学校の大規模改修工事完了(8月末)。
 - ・浅舞小学校改修工事設計内容等の確認が終了し、令和3年度の早期に発注が可能となった。
 - ・吉田・醍醐小学校の建物調査概算設計などが終了し、来年度以降の改修工事の準備が完了。
- その他の成果
 - ・全小中学校の普通教室へ令和3年夏までエアコンを設置するよう、設計等を行い工事請負契約を締結した。
 - ・小中学校トイレの洋式化を進めるため、洋式化率の低い3校の改修工事を実施中。(1校は工事完了)

令和2年度

教育総務部 生涯学習課の方針書

組織名	教育総務部 生涯学習課
所属長名	横井 朗

1. 組織の使命(ありたい姿)

「いつでも どこでも だれでも なんでも」楽しく学び、元気なまち・ひとづくりの実現

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・学校、家庭、地域の連携・協働による子どもたちの成長を支える環境の構築
- ・地区交流センター事業内容の深化

3. 今年度の『スローガン』

明るく元気に柔軟に！ 学んだことを行動に結びつける！

4. 今年度の方針

- ・学校、家庭、地域における双方向連携による協働体制の推進を図る
- ・地区交流センター事業における地域資源の発掘と活用を図る

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域学校協働活動の推進
	取組内容	・学校支援活動による・学校、家庭、地域の連携・協働の更なる推進 ⇒コーディネーターの配置拡大(1地区)、家庭教育支援チームの周知及び活動支援 ・子ども教室の体制整備 ⇒8地域16教室の開設、定員や開催日数、体験活動内容の見直し
(2)	実現したい成果	コミュニティスクール導入に向けた具体的検討
	取組内容	・制度についての理解を深める ・関係職員を対象とした研修会の実施
(3)	実現したい成果	地区交流センター事業における地域資源の発掘と活用
	取組内容	・地域資源を活用した横手の郷土学習の推進 ・地域課題の掘り起こし、解決に向けた取り組みを地域づくり支援課とともに強化・支援

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 地域学校協働活動の推進
- ・新たに1地区(山内)に1名のコーディネーターを配置(全10名)。総合学習での補助など学校と地域の連携・協働による子どもの育成を推進した。
 - ・横手市家庭教育支援チーム「どんぐりすのもり」の活動支援として、チラシを作成し周知。新型コロナウイルス感染症のためメールでの個別相談を実施中。
 - ・夏休み子ども教室は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とした(8地域16教室)。
- (2) コミュニティ・スクール導入に向けた具体的検討
- ・教育指導課とともに学校訪問を行い導入に向けた聞き取りを実施。県主催の研修会を受講し制度等を学び理解を深めた(教職員等16名)。
- (3) 地区交流センター事業における地域資源の発掘と活用
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により地区交流センター事業が中止、延期となる。総合テキスト「よこてだいすき」の改定版作成のため現地確認や取材を行い、地域資源等の再確認を行った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 地域学校協働活動の推進
- ・引き続き、学校と地域の連携・協働を図り双方向での協働を推進する。
 - ・コロナ禍のため、今年度の家庭教育支援チームの活動はメールでの個別相談に力を入れ、子育て講座や入学説明会、PTAの際に周知していく。
 - ・冬休み子ども教室は新型コロナウイルス感染症予防対策を行い開催する(8地域16教室、小学1～3年生対象、定員15名、3日間)。
- (2) コミュニティ・スクール導入に向けた具体的検討
- ・引き続き、教育指導課と連携し市内教職員向け研修会を実施する。また、コーディネーターの協力を得ながらコミュニティ・スクール導入に向け公民館や地区交流センター事業と一体的な事業展開ができるよう「横手市版コミュニティ・スクールハンドブック」などを作成し、令和3年度スタートに向け準備を進める。
- (3) 地区交流センター事業における地域資源の発掘と活用
- ・新型コロナウイルス感染症によるイベント等の規制が緩和されたため、郷土学習講座等を開催する。
 - ・次年度に向け地域課題に関する事業の企画・実施に向け、各センター長(公民館長)との個別協議を実施する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 地域学校協働活動の推進
- ・山内地区に新たにコーディネーターを配置し市内9地区(10名)で、学校と地域の協働による子どもたちの健全育成を推進。令和4年度から全小中学校でのコミュニティスクール実施に向け、未配置小学校区への配置を進めていく。
 - ・コロナ禍のためメールでの個別相談やZoomを活用したオンライン講座を実施。チラシやのぼりを作成し子育て講座や入学説明会で活動紹介等を行い、学校や行政機関以外の子育て相談窓口として家庭教育支援チームを周知できた。今後も引き続き効果的なPRに努めていく。
 - ・夏休み子ども教室は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止としたが、冬休み子ども教室は開催日数や定員、活動内容を見直し感染症対策とスタッフの負担軽減に配慮しながら実施したが、暴風雪予報による急な中止もあり1～3日の開催となった。今後は緊急時における各家庭への連絡体制について、電話だけでなくメールの活用や別の手段について検討する。
- (2) コミュニティ・スクール導入に向けた具体的検討
- ・学校訪問により導入に向けた課題等を整理しハンドブック等を作成。市研修会を開催し制度等について共通理解を図り情報共有した。令和3年度より4校(増田小・中、十文字小・中)をモデル校として試行する。令和4年度からの全小中学校での実施に向け準備を進める。
- (3) 地区交流センター事業における地域資源の発掘と活用
- ・夏以降、地区交流センター事業や公民館事業等と連携し、小学生から大人まで幅広い世代を対象に郷土学習講座を19回実施。地域住民への郷土学習の意識づけができた。
 - ・関係各課と連携しワークショップ等により地域課題を洗いだし事業化するなど、新たな取り組みに対する支援を行った。引き続き、各センター長(公民館長)や職員と協議し、地域住民を巻き込んだ事業が展開できるよう支援していく。

令和2年度

教育総務部 スポーツ振興課の方針書

組織名	教育総務部 スポーツ振興課
所属長名	加藤 貞純

1. 組織の使命(ありたい姿)

「元気なまちを築く生涯スポーツの推進」
・すべての市民が様々な形でスポーツに親しむことができるよう、健康で楽しめる生涯スポーツを推進してまいります。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・運動習慣の定着化による市民の健康増進支援
- ・計画的なスポーツ施設の整備・修繕の推進
- ・スポーツ施設の指定管理者制度導入による効率的な施設運営の支援

3. 今年度の『スローガン』

「到達点を思い描く！」

4. 今年度の方針

- ・だれもがスポーツに親しめる機会の充実にに向けた取り組み
- ・スポーツ施設の整備・充実にに向けた課題の解消
- ・令和3年度からの新たな「横手市スポーツ推進計画」の策定

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の健康・体力づくりを継続できるスポーツ事業への取り組み
	取組内容	・ホストタウン事業のバドミントンによる生涯スポーツの普及促進などにより市民の運動機会の創出を図る。 ・冬季間の運動不足解消や施設の有効利用を図るため、赤坂総合公園の利活用を充実させていく。 ・スポーツ推進委員会や関係団体との連携を深め、ニュースポーツなどの紹介や情報発信を行う。 ・東京2020オリンピック大会への関心や市民の応援の機運を高めるため、関係団体との調整を図る。
(2)	実現したい成果	スポーツ施設の適切な管理運営を進め、市民の施設利用満足度の向上
	取組内容	・十文字陸上競技場改修工事や大森公園テニスコート整備、大鳥公園プール解体の設計監理委託等を進める。 ・市FM計画の方針に基づき、関係課との調整を進めながら老朽化したスポーツ施設の整備・修繕・解体を計画的に進める。 ・安全安心なスポーツ施設を提供するための情報提供や条件整備を図る。
(3)	実現したい成果	令和3年度からの新たな「横手市スポーツ推進計画」の策定
	取組内容	・現在のスポーツ振興計画のアクションプラン及び重点施策の振り返りと分析を実施。 ・関係課と協議を行いながらスケジュールに基づいた横手市スポーツ推進計画を策定する。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- だれもがスポーツに親しめる機会の充実にに向けた取り組み
今年度はコロナウイルス感染症拡大の影響により東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催延期に伴う聖火リレーの延期やスポーツ施設の利用制限、スポーツ少年団や学校の部活動制限により各種スポーツ関連事業の中止等が余儀なくされた。
- スポーツ施設の整備・充実にに向けた課題の解消
昨年度に作成した「横手市スポーツ施設修繕シート案」をもとに、各地域のスポーツ施設の状況の現地調査やヒアリングによる再点検を行い、財政課と連携し、きめ細かな施設修繕を行っている。
- 令和3年度からの新たな「横手市スポーツ推進計画」の策定
スポーツ政策に関係している課室所から政策に関わる作業委員を選出していただき、現計画のアクションプランの振り返りと新計画に反映させる新しいアクションプランの検討を実施した。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- だれもがスポーツに親しめる機会の充実にに向けた取り組み
上期ではコロナウイルス感染症対策に関する国や県のガイドライン等に則り、大会や施設の運営を行っているほか、関係団体への情報提供も行っており、今後も適切な感染症対策を行いながら事業展開をしていく必要がある。また、赤坂総合公園の新スノーパーク開設やスポーツ推進委員会や関係団体との連携、東京2020オリンピック大会に向けての聖火リレーの準備、バドミントン関連事業の実施の可否、ホスタウン国であるインドネシア共和国と青少年交流の方向性を協議していく必要がある。
- スポーツ施設の整備・充実にに向けた課題の解消
スポーツ施設の台帳整備を行いながら計画的な修繕を実施していく。冬季に発生する不測の事態にも対応が必要なため財政課や関係課と連携して対応していく必要がある。また、今年度実施している各種施設の改修事業等の進行管理を行っていく。
- 令和3年度からの新たな「横手市スポーツ推進計画」の策定
新アクションプラン案が固まり次第、スポーツ推進審議会や政策会議、市議会への説明、パブリックコメント等を経て3月中の策定を目指す。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- だれもがスポーツに親しめる機会の充実にに向けた取り組み
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも奥羽横断駅伝競走大会を開催した。感染症対策を徹底して60周年記念大会を終了することが出来た。また、誰でもアプリを使って参加できる健康スポーツイベント「オクトーバーラン&ウォーク2020」に120名超の市民に参加をいただいた。また、赤坂総合公園内の斜面を活用したソリ遊び等が体験できるスノーパークを新設し多くの利用者で賑わった。
- スポーツ施設の整備・充実にに向けた課題の解消
スポーツ施設の修繕計画シートと台帳整備を実施し、次年度からのスポーツ施設の計画的な修繕について各地域と協議を本格的に進めていく。また、財政課の共通修繕費も効率よく活用することが出来たので次年度も財政課、各地域課と連携してスポーツ施設の修繕を進めていく。また、大鳥公園プールの次年度に向けた解体の方向性やスケジュール等について協議してきた。
- 令和3年度からの新たな「横手市スポーツ推進計画」の策定
各関係課所の作業部会やスポーツ関連団体との意見交換会、スポーツ推進審議会、政策会議、市議会への説明、パブリックコメントを実施し、令和3年4月から施行する準備が出来た。

令和2年度

教育総務部 文化財保護課の方針書

組織名	教育総務部 文化財保護課
所属長名	佐藤 孝之

1. 組織の使命(ありたい姿)

よこての伝統文化と歴史的資産を調査し、それを保護して未来に繋げます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・市内各地に残る伝統芸能の伝承者の育成
- ・地域資産として歴史的価値の高い遺跡の解明と開発事業に伴う緊急発掘調査事業量との調和
- ・文化財保全のための施設の有効な活用

3. 今年度の『スローガン』

長い歴史と伝統を誇るよこての文化資産を未来に繋げよう

4. 今年度の方針

- ・まちづくり推進部文化振興課と連携し、文化的資産の保護と活用を検討する。
- ・課内の協力体制を構築し、文化財の価値のレベルを共有する。
- ・文化財の保護や公開のための資料館のあり方を検討する。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	「横手を学ぶ郷土学」の推進と定着
	取組内容	①関係課と調整のうえ「よこてだいすき」「横手の文化財」を現状に合わせ改訂する。 ②市内小学校新入生等を対象に配布する。 ③総合テキスト等の配布事業・伝統芸能後継者育成チーム支援事業・横手市創作子ども歌舞伎制作上演事業・横手市子ども伝統芸能発表大会開催事業を実施する。
(2)	実現したい成果	埋蔵文化財発掘調査事業の推進
	取組内容	①絵画に残された柵として日本で最も古い金沢柵については、内容と範囲を明らかにするための確認調査を実施し、国指定史跡を目指す。 ②開発事業に伴い消滅する遺跡については、発掘調査で記録保存(報告書)を行い、後世に残す。 ③調査によって明らかになった新たな横手市の歴史を深めるため、説明会や公開講座などを行う。
(3)	実現したい成果	郷土資料館施設等の運用のあり方の検討
	取組内容	①各施設の収蔵品整理に着手する。 ②全市的な資料館の設置に向けた、関係各課との協議を行う。 ③各施設の維持管理について、再構築を含む合理化を図るための検討を行う。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)①改訂版総合テキスト「よこてだいすき」等の内容校正を実施し、デジタルテキスト化へ向けた準備を併せて進めている。
- (1)②市内小学生新入生644名へ総合テキストを配布済。配布率100.0%。以降、転入生には随時対応。
- (1)③伝統芸能後継者育成チーム、創作子ども歌舞伎については開催中止としたが、今後の育成と行事開催についての方向性を関係代表者と話し合うなどし、次年度以降の支援方針を決定するための判断材料としている。
- (2)①金沢柵については、開発事業に伴う緊急発掘調査以後、9月から雑木処理や草刈りなどの環境整備を行い、地形を把握し、測量調査を行った後で、発掘調査を実施している。
- (2)②県営ほ場整備事業に伴う下福田尻遺跡の発掘調査を5月から8月にかけて行い、奈良・中世の遺跡であることが判明し、記録保存を行った。今後は遺構・遺物の整理作業を行い、次年度の報告書刊行を目指す。昨年度、県営ほ場整備事業に伴う柴崎遺跡の遺構・遺物の整理作業を今年度も継続しており、瓢箪(ひょうたん)の柄杓(ひしゃく)や大型の盤(ばん)など、平安時代の居宅的な遺跡であることが明らかになりつつある。令和3年3月の報告書刊行を目指し、整理作業を継続中である。
- (2)③下福田尻遺跡の現地説明会については、コロナ禍の影響で中止せざるを得なかったが、10月3日の後三年合戦沼柵公開講座については、安全対策を十分に施し、事業を実施できるよう進めて開催の運びとなった。
- (3)①雄物川・金沢両資料館の収蔵品等について長期の臨時休館を利用し整理した。その他収蔵品については、次年度以降整理できるよう、関係課所と調整を行っている。
- (3)②③FM計画に基づき、全市的な視点で資料館の整理統合を行えるよう、関係各所との協議を行い、平鹿農村文化伝承館については、FM計画の実施時期を延期するための変更手続きを行った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)伝統芸能育成チームの編成支援は、これまで実施の金沢掛け唄において一定の成果が出たことから、次の支援団体を選定するための調査を行うこととしたい。また、創作子ども歌舞伎は、来年度、新生十文字小学校にてお披露目できるよう小学校との連携を図ることとしたい。
- (2)金沢柵の発掘調査は、建物跡の検出を目指し、文化庁・後三年合戦関連遺跡整備指導委員会等の指導を仰ぎながら、的確な調査を進めていく。開発事業によって消滅する遺跡の報告書作成は、その遺跡の性格や意義を十分に把握し、横手市の歴史文化を深めるものとする。金沢柵推定地の調査成果については、コロナ対策を十分にを行い、12月に後三年合戦金沢柵公開講座を開催する予定である。
- (3)市内資料館については、施設の整備方針を定めつつ、散逸している文化財等の収蔵品を集積することを優先し、関係課所と連携するなどし、全市的な視点で検討を進めていきたい。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)「横手を学ぶ郷土学」総合テキスト「よこてだいすき」と「横手市の文化財」の改訂版とデジタル教材が完成した。今後、小中学校で活用していただくことになるが、より使いやすい教材となるよう教育指導課や学校現場からの意見をいただきながらレベルアップを図りたい。
- 創作子ども歌舞伎や伝統芸能育成チームの編成支援は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて実施できるように工夫していききたい。
- (2)金沢柵の発掘調査について、柵を特定できるまでには至らなかったため、文化庁・後三年合戦関連遺跡整備指導委員会等の指導に基づき調査を継続していきたい。また、調査結果を市民に紹介し、理解を深めていただくため、公開講座の開催やパンフレットの作成を実施していきたい。
- (3)横手市歴史文化遺産保存活用地域計画に基づき全市的な文化財保護及び活用を実施するため、市内資料館施設の複合化を検討していきたい。

令和2年度

教育総務部 図書館課の方針書

組織名	教育総務部 図書館課
所属長名	佐藤 輝明

1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の豊かな教養と文化の向上に資する図書館を目指します。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・読書文化の振興や情報交流の推進
- ・読書活動支援の充実
- ・図書館の設備や機能の充実

3. 今年度の『スローガン』

愛され・役立ち・市民と共に成長し合える図書館体制のさらなる充実を図ろう！

4. 今年度の方針

- ・地域に役立つ図書館機能の充実と、そのための資料収集及び提供の促進
- ・横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画に基づく読書活動の推進
- ・「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる具体的方向性の確立

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域に役立つ図書館機能の充実と、そのための資料収集及び提供の促進
	取組内容	・地域の特徴を活かしたサービスを展開している図書館視察の実施や、研修会への参加 ・地域におけるニーズや課題の取りまとめ ・地域に役立つ具体的事業の企画立案
(2)	実現したい成果	横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画に基づく読書活動の推進
	取組内容	・第2次横手市子ども読書活動推進計画の目標達成に向けた庁内関係課との連携と情報共有、現状と課題に基づく子ども読書活動推進委員会での協議 ・同計画及び横手市生涯学習推進計画第3次計画達成に向けた具体的取り組みの実践 ・読書に関する作品コンクールやイベントにおける読書情報の提供
(3)	実現したい成果	「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる具体的方向性の確立
	取組内容	・6館全体及び独立館単位双方における、幅広い年代の市民が気軽に集える図書館の検討 ・市民の成長を応援する図書館機能の具体化 ・新横手図書館機能の整備と、「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる調査研究

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 地域に役立つ図書館機能の充実と、そのための資料収集及び提供の促進
⇒秋田県図書館協会等主催研修が中止となったため、新たな企画を別途検討中
⇒重点収集項目に基づく資料の収集と、カウンター業務等を通じ地域におけるニーズ把握の継続実施
- (2) 横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画に基づく読書活動の推進
⇒数値目標達成と次期計画策定に向けた「アンケート調査」の準備
- (3) 「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる具体的方向性の確立
⇒横手駅東口再開発事業における「実施設計」作業と、「新公益施設の運営基本計画」策定作業の開始
⇒有識者から広くアドバイスをいただき、「市立図書館6館体制のあり方」の検討

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 地域に役立つ図書館機能の充実と、そのための資料収集及び提供の促進
⇒実施できていない先進図書館視察の検討
⇒聞き取った地域におけるニーズ等の精査に基づき、「特徴を活かした図書館づくり」の実現
- (2) 横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画に基づく読書活動の推進
⇒「子ども読書活動推進委員会」開催の準備と、目標達成に向けた現状と課題の確認
- (3) 「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる具体的方向性の確立
⇒横手駅東口再開発事業における「新公益施設の運営基本計画」策定作業の継続と、書架の仕様等詳細の決定
⇒有識者から広くアドバイスをいただき、「市立図書館全6館体制のあり方」素案の決定

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 地域に役立つ図書館機能の充実と、そのための資料収集及び提供の促進
⇒新型コロナウイルス感染症の影響等により、先進図書館視察は実施できなかったため、次年度以降検討したい。
⇒聞き取ったニーズを精査し、資料収集方針に基づき各館の重点収集資料を中心に購入し、提供に努めた。
引き続き地域ごとのニーズを把握し、「特徴を活かした図書館づくり」をしっかりと進める。
- (2) 横手市子ども読書活動推進計画及び横手市生涯学習推進計画に基づく読書活動の推進
⇒「子ども読書活動推進委員会」の開催とアンケート実施により、目標達成に向けた現状と課題を確認し、新たな取り組みの実施につなげた。
- (3) 「市立図書館6館体制」のさらなる充実につながる具体的方向性の確立
⇒横手駅東口再開発事業における「新公益施設の運営基本計画」についてアドバイザーと検討を進めた。
書架の仕様等内部の詳細については、利用しやすい図書館を目指し、検討を継続する。
⇒市立図書館全6館体制のあり方については、各館を維持していく方向で検討した。次年度以降は、各館の現状を把握しながら、新公益施設と他館との関係を検討し、サービスを低下させず、各館を維持していく方法について検討を継続する。